武将ゆかりの史跡100選

西尾張地方の戦国マップ

「西尾張地方の戦国マップ」の使い方

◆この面の各史跡名の番号は地図面の番号に対応しています。

◆HIMITSU 対応機器（カーナビをはじめ、携帯電話やパソコン、PDAなど）をご使用になれば、コードを入力することにより各史跡のおおよその場所をご覧いただけます。

■ASP
地図検索サイトなど
■アプリケーションソフト
PDAナビ、地図ビューワ、GPS携帯電話など

一宮市

1 墨俣一夜城（すのまたいちやじょう） HIMITSU 28397626*51

●住所：岐阜県大垣市墨俣町墨俣字城之越1742-1

永禄9年（1566）織田信長は、美濃侵攻の前線基地としてこの地を選んだ。敵地での工事は難航を極め、相次ぎ失敗に終わったが、主将木下藤吉郎、蜂屋頼隆、小六正勝、前野将右衛門52千数百人が参加、3日間昼夜兼行の突貫工事は成功し、世にこれを「墨俣の一夜城」と呼ぶ。

2 長谷川秀一公旧居跡（はせがわひでかずこうきゅうきょあと） HIMITSU 28379755*12

●住所：一宮市北方町宇宮浦42（北方中学校）

長谷川秀一は北方町下渡の出身で、織田信長に小姓として仕え、後に安土城二の丸前に屋敷構え、安土問論（浄土宗と法華宗の宗論）の事行司役を務めた。本能寺の変後は豊臣秀吉に仕え、越前国東郷（現福井市）15万石の領主となり東郷侍従と称された。嫡子なく家は断絶した。

3 光明寺城址（こうみょうじじょうあと） HIMITSU 28381202*07

●住所：一宮市光明寺字本郷屋敷

織田信長の家臣で智将美濃の名将として知られた神戸信春守が居城した。信長はこの地に砦を封じ、美濃攻略の拠点とした。弘治2年（1556）伊勢大河内（現在の松阪市）の戦に出陣、華麗舞踊に突入して壮絶な討死を遂げ、以来本城は廃城となった。

4 大野城跡（おおのじょうあと） HIMITSU 28384158*86

●住所：一宮市浅井町大野字小屋東1400（大野極楽寺公園）

永禄年間（1558-1569）織田信長の弟に山村伊賀守が濃州百宮城から移り居城したと伝わる。天正12年（1584）小牧長久手合戦の際は、下奈良・宮後・河田の砦とともに羽柴秀吉方の砦として利用された。現在は大野極楽寺公園の一部となっている。

5 河田城跡（こうだじょうあと） HIMITSU 28385216*80

●住所：一宮市浅井町河田字神明社631-1

小牧長久手合戦の時、羽柴秀吉が小牧山の徳川家康・織田信雄連合軍に対して構築した城砦の一つ。4月末頃築城され、美濃の武将稲葉一鉄が居城、同年7月に秀吉が居陣した。秀吉と信雄の和議成立後もしばらく秀吉方の城として残された。

6 黒田城跡（くろだじょうあと） HIMITSU 28349033*84

●住所：一宮市木曽川町大字黒田字古城26-2（黒田小学校）

明応年間（1492-1501）、後藤光秋が武家屋敷を築いたのを、山内盛重（一豊の父）が手を加えて築城した。土佐藩初山内一豊はこの黒田城で誕生したといわれる（岩倉城主説もあり、No.37参照）。黒田城址は現在黒田小学校となり、その一角に小公園が整備され、一豊立志像がある。

7 法蓮寺（山内一豊公出生之地碑）（ほうれんじ（やまうちかずとよこうしゅっせいのちひ） HIMITSU 28349158*86

●住所：一宮市木曽川町黒田字勘治西60

日蓮宗の寺院で明応2年（1493）に開基する。日本三大妙見の一つ、黒田城主山内盛重の菩提寺。織田信長の砦封じにあって戦死した長男十郎と、若い頃の一豊はここで誕生した。この寺の墓地には織田信長に仕えた、触妖関の初陣に武功を重ね、のちに初代尾張藩主徳川義直の家臣となった。

8 兼松正吉墓碑（かねまつまさよし） HIMITSU 28322356*51

●住所：一宮市島村字花ノ木179（東林禅寺）

兼松正吉は葉栗郡島村に誕生。織田信長に仕え、槍狭間の初陣以来幾多の合戦に功を重ね（陣中で横笛の正吉が信長から至宝を拝領したことは有名）、本能寺の変後は羽柴秀吉、徳川家康に仕えた。関ヶ原合戦後は尾張藩徳川義直に仕え、寛永4年（1627）没。東林禅寺に葬られた。

9 若栗神社八幡宮（わくりじんじゃはちまんぐう） HIMITSU 28353002*40

●住所：一宮市島村字南廣山75

白鳥年間（7世紀後半）、この地域の有力者葉栗臣人皇の創建と伝える。乱世に衰微していたのを慶長10年（1605）兼松正吉が再興し、若栗天神八幡宮を総氏たと伝わる。兼松正吉は織田信長に仕え、触妖関の初陣に武功を重ね、のちに初代尾張藩主徳川義直の家臣となった。

10 奥城址（おくじょうあと） HIMITSU 4840805*13

●住所：一宮市奥町字下口西10（奥町西保育園）

榎川高盛の居城。高盛は織田信長に仕え、本能寺の変で信長自刃の後は織田信雄に仕えた。小牧長久手合戦の際は、信長の弟中條信照を奥城に迎え入れ、羽柴秀吉方と対峙した。秀吉軍の攻撃に信雄方から援軍はなく、開城したといわれる。

11 奥村永福公出生地碑（おくむらえいふくこうしゅっせいちひ） HIMITSU 4841884*52

●住所：一宮市奥町貴船8（貴船神社）

奥村永福は加賀藩祖前田利家の城代家老として仕え、能登国の要衝、末森城の守将として越中の佐々成政が加賀・能登へ侵攻した際は城を死守し、功を讃えられた。子孫は代々加賀藩前田家の家老を務めた。貴船神社は永福の武運長久を願い奉られる（清洲生誕説もあり）。

12 梶川高盛公宅之址碑（かじかわたかもりこうたくのあとひ） HIMITSU 4841884*52

●住所：一宮市奥町貴船8（貴船神社）

榎川高盛は丹羽郡梁田城主として織田信長に仕えた。天正元年（1573）、信長に従い足利義昭を攻めた槇島城の戦いでは、宇治川で焼失、その後は信長死後は織田信雄に従い、小牧長久手合戦の際には曲城に移り羽柴秀吉方に対抗した。が落城した。首級捜すも大山市浜田の常福禅寺。

13 野府城跡（のぶじょうあと） HIMITSU 4843121*16

●住所：一宮市開明字城堀20（開明小学校）

織田信雄の居城で信長の弟、信治の居城。元亀元年（1570）織田信長・徳川家康連合軍と浅井長政・朝倉義景連合軍との姉川の戦いの後、近江平伝山城を守備していたが、浅井・朝倉両軍の攻撃を受け討死した。また、「尾張絵記」には信長家臣の武藤掃部が野府の城跡に住んだとある。

14 下奈良城跡（しもならじょうあと） HIMITSU 4852306*52

●住所：一宮市春明字北本郷43

小牧長久手合戦の際、羽柴秀吉が一時的に築いた城の一つ。秀吉が犬山城から楽田城へと移り、この城を最右翼として織田信雄・徳川家康方に対抗した。両軍の間に講和が成立するとともに破却された。

15 浮野合戦場址（うきのがっせんじょうあと） HIMITSU 4822010*62

●住所：一宮市千秋町浮野字海道

永禄元年（1558）尾張統一を目指す清洲城主織田信長と犬山城主織田信清の連合軍が、岩倉城主織田信安と浮野において衝突した。これを浮野合戦と呼び、討死した将兵を祭った地（通称浮則首塚（ズクずつか））に碑が建てられた。

16 常念寺（じょうねんじ） HIMITSU 4786118*03

●住所：一宮市江1-11-26

明徳元年（1390）に空運召運上人（足利義氏の甥）が開基した西山浄土宗の寺院で、開一族の菩提寺。天正初期に兵火の為に焼失、その後一宮城主の関長重により城の鬼門鎮護として現在地に移された。関政経（康正）、関十郎右衛門長重、関十郎右衛門長安の三代の供養塔がある。

17 一宮城跡（いちのみやじょうあと） HIMITSU 4756767*75

●住所：一宮市本町3丁目1-11

貴清田神社の神官である関十郎右衛門が、神社と社領を守るために築いた城である。十郎右衛門の子小十郎右衛門は織田信長や羽柴秀吉に仕え、妻が秀吉陣営の有力武将森長可の娘であったため、その縁により、小牧長久手合戦で羽柴秀吉方に味方し、天正12年、その後廃城となった。

18 大赤見城跡（おおあかみじょうあと） HIMITSU 4789151*33

●住所：一宮市赤見2-5

築城年不詳。築城者不詳。織田勢入、その子平七郎の居城とされる。赤見の地は小牧長久手合戦の際、徳川家康方の前哨家員が守城し、羽柴秀吉方に対抗した。付近の地下中屋敷、市場東屋敷などの地名から城下町時代の面影が偲ばれる。

19 浅野長政公宅址（あさのながまさこうたくあと） HIMITSU 4759201*02

●住所：一宮市浅野字八幡（浅野公園）

浅野長勝やその子長政の屋敷跡と伝える。浅野長政は豊臣秀吉に相婿の関係にあり、後心として、その全国統一に大きな役割を果たした。関ヶ原の戦いでは子の有長とともに徳川方に属した。忠臣蔵で有名な播州赤穂藩は、長政の三男長重から続く分家である。現在は浅野公園となっている。

20 聖徳寺跡（しょうとくじあと） HIMITSU 28163466*15

●住所：一宮市富田字大堀413-5

天文21年（1552、天文18年・22年説もあり）、織田信長が美濃の斎藤道三と会見したとされる場所。「信長公記」によれば、道三は町はずれの小屋に忍び信長が現れる様子をのぞき見したという。聖徳寺は本曽川の氾濫により、場所は転々と移られ、当時の正確な場所は定かでない。

21 苅安賀城址（かりやすがじょうあと） HIMITSU 4723232*67

●住所：一宮市大和町苅安賀1580

近江の浅井氏の一族浅井信清が築城。その孫田宮丸長時は東老として織田信雄に仕えたが、羽柴秀吉との内通を疑われ同国重孝、津川義冬らとともに殺害された。田宮丸を討った信雄の家臣、森久三郎が城主となった。小牧長久手合戦の際には徳川家康、織田信雄軍の前線基地となった。

22 妙興報恩禅寺（みょうこうほうおんぜんじ） HIMITSU 4696760*16

●住所：一宮市木曽川町妙興寺2438

貞和4年（1348）尾張国中島郡北中島庶人の二男滅宗宗興によって創建された臨済宗妙心寺派の名刹。足利家歴代の位牌を祭り、尾張一国の中心的存在。国指定重要文化財の観世門や重臣秀吉の再慶面等の文化財を保有している。

23 重吉城跡（しげよしじょうあと） HIMITSU 4700381*06

●住所：一宮市丹陽町重吉字城戸

吉田三ツ井の城ともいう。大永年間（1521-28）尾藤源内重吉が信清より三ツ井の国に移りこの地に築城したと伝える。小牧長久手合戦の際に、羽柴秀吉方に対し、小牧山の徳川家康方と清洲城の織田信雄方の連絡中継地として重要な役割を果たした。

24 吉藤城跡（よしふじじょうあと） HIMITSU 28104408*24

●住所：一宮市明地字南吉城35-2

織田信長の二男、織田信雄に仕えた遠藤三郎右衛門の居城とされる。小牧長久手合戦の際に、羽柴秀吉方の攻撃に対し、織田信雄は長益（有楽斎和尚）を派遣して羽柴秀吉方の攻撃に対する防御を強化した。碑の付近からは、室町時代の土器片や中国北宋時代の銅銭が出土している。

25 中島城址（なかしまじょうあと） HIMITSU 4663093*35

●住所：一宮市萩原町中島字城址

平安時代末期頃築造の、羽柴秀吉方の森長可が于人の軍兵を置くために構えた館跡と伝えられている。鎌倉時代に中島氏が、室町時代に中島一族の居館と考えられ、発掘調査の結果、秀吉方にとって最前線の砦であった。碑の地は花崗岩質で、算出される砂は名古屋城の石垣にも使用されている。

26 曼陀羅寺（まんだらじ） HIMITSU 28358513*77

●住所：江南市前見保町寺町202

元徳元年（1329）に後醍醐天皇の勅願寺として創建された尾北地方有数の古刹。尾張徳川家より寺領231石余を給された。本殿は徳島藩稲葉頃賓家政の寄進による。愛知県市公園として整備され、特に「曼陀羅寺の藤」は有名で、毎年春「藤まつり」が開催される。

27 宮後城跡（みやごじょうあと） 70001704*05

●住所：江南市宮後町八幡33

蜂須賀家屋敷跡は、宮後八幡社の北西にあったと伝える。古文書には蜂須賀小六正勝の屋敷跡があったとされる記述や、母の実家である安井氏の居城があったとする記述があり、蜂須賀小六と家政親子が世に出る前の一時期を過ごしたといわれる。

28 宮後八幡社（みやごはちまんしゃ） 70001585*68

●住所：江南市宮後町八幡79

蜂須賀家政は幼少の頃、父小六正勝とともに宮後に居住し、父とともに豊臣秀吉の家臣として各地を転戦。ついに同波国徳島17万石の大名となった。寛永元年（1624）家政が7歳のとき、故郷の宮後の地が忘れがたく、八幡社の本殿、鈴殿、拝殿を造営寄進した。

29 前野家屋敷跡（まえのやいえやしき） 70002100*14

●住所：江南市前野町西261

坂東平氏立木田高長を祖とする前野氏の屋敷跡で、蜂須賀小六と義兄弟の契りを結び関白秀次の後見役に出世した前野将右衛門長康、小牧珠丸郎遠吉（前野宗吉）などの武将を輩出した。江戸時代に入り、吉田姓を名乗る、「武功伝記」など多数の古文書を所蔵する旧家である。

30 富士塚の碑（ふじづかのひ） 4825479*01

●住所：江南市南山町東22

小牧長久手合戦の際、徳川家康が織田信雄とともに小折城の生駒氏を訪ねた帰途、この富士塚に立って敵情を視察し、その後の戦いを有利にしたと伝える。後世、生駒氏の6代利勝が生駒家の武勲を大内の碑に刻し、亀型の台石の上に建立した。この塚を称して「お亀塚」とも呼ぶ。

31 宝頂山墓地（ほうちょうやまぼち） 4825086*52

●住所：江南市小折町八反畑147

尾張の豪族生駒家の墓所で、織田信長の室「吉乃（きつの）」の兄にあたる生駒家宗内定長夫妻の五輪塔、五代利豊夫妻の石廟、十代同勝の墓碑がある。石廟形式の墓は近辺では稀の下珠ハ、生駒氏は織田信長、豊臣秀吉に仕え、江戸時代には尾張徳川家を支えた名家である。

32 生駒屋敷跡（いこまやしきあと） 4795763*36

●住所：江南市小折町八反畑147

油と染色に用いる灰の商いで財を成した尾張の土豪、生駒氏の居城跡で、広大な敷地に多くの建物が立ち並び、小折にあることから小折城とも呼ばれた。3代家宗の娘「吉乃」が織田信長の室となり、嫡男信忠、二男信雄、長女徳姫（松平信康正室）をもうけた。

33 久昌寺（きゅうしょうじ） 4795670*60

●住所：江南市田代町郷中51

曹洞宗大本山総持寺の末寺で、寺号は織田信長の室吉乃の法名「久庵桂昌大禅定尼」に由来する。吉乃の実家である生駒氏の一族を明治、生駒氏は信長と深い関係を結び、江戸時代には尾張徳川家の家臣となる。境内には生駒氏一族の墓地とともに吉乃の墓碑がある。

34 小口城址（こぐちじょうあと） 70005489*12

●住所：丹羽郡大口町大字小口字城屋敷地内（小口城址公園）

長禄3年（1459）、織田遠江守広近の築城といわれ、別名「箭笈（やはず）城」、岩倉の織田伊勢守の要塞。永禄年間（1558-1569）に清洲の織田信長の攻略により城となった。が、小牧長久手合戦の際、羽柴秀吉方の砦となり信長方と対峙した。

大口町

35 堀尾吉晴邸跡（ほりおよしはるていあと） HIMITSU 4827634*82

●住所：丹羽郡大口町堀尾跡1丁目

堀尾吉晴生誕地。吉晴は木下藤吉郎に仕えて武功を重ね、小田原の北条征伐後は遠江国浜松12万石に封ぜられた。関ヶ原の戦いでは、吉晴の嫡子忠氏が東軍として参戦、戦後徳川家康より遠江国と引き換えに、松江城を築いた。八剣社に「堀尾吉晴邸跡」の碑がある。

36 堀尾跡公園（ほりおせきこうえん） HIMITSU 4827781*82

●住所：丹羽郡大口町堀尾跡1丁目50

堀尾金助は天正元年（1573）、堀尾吉晴の長男として誕生したとされる（異説も多い）。豊臣秀吉の小田原攻め後、徳川家康から直接に吉晴とともに参戦し、戦後すぐに亡くなった。金助の母が、最後の別れの場になった精進川に架かる親断橋を架け替えたという「親断橋物語」は有名。

岩倉市

37 神明生田神社（山内一豊公生誕地碑）（しんめいいくたじんじゃ（やまうちかずとよこうせいたんちひ） HIMITSU 4705016*82

●住所：岩倉市下本町下市場25

岩倉で最も歴史のある山王（ざい）が保存されている神社で、山内一豊生誕の地とされる。天正8年の濃尾大地震で発見された棟札が、一豊の父盛豊からかりの形で寄付した旨が記されていることから、この地が一豊生誕地碑が建立された。山内一豊の生誕地は黒田城（一宮市）との説もある。（No.6参照）

38 岩倉城跡（いわくらじょうあと） HIMITSU 4675589*88

●住所：岩倉市下本町

尾張国の守護、斯波氏の守護代織田伊勢守信安の居城跡。織田氏は尾張を二分し、織田大和守は清洲城に本拠、「尾張公記」によれば、遠江に戦はずれの小屋に忍び信長が現れる様子をのぞき見したという。聖徳寺は木曽川の氾濫により、当時の正確な場所は定かでない。

39 織田伊勢守信安夫妻の墓（おだいせのかみのぶやすふさいのはか） HIMITSU 4675459*06

●住所：岩倉市下本町下寺園49（誓願寺）

岩倉城主織田信安夫妻の墓。かつて織田信安夫妻の墓は、子孫津田新十郎の菩提寺、金剛寺（名古屋市東区）に建立されていたが消失されてしまったため、1978年発見され、信安の正室秋悦院（織田信定の娘で岩倉殿と呼ばれた）ゆかりの誓願寺に移植された。

犬山市

40 犬山城（いぬやまじょう） 70188182*85

●住所：犬山市大字犬山古寺65-2

天文6年（1537）織田信康の築城、国宝に指定されている天守は別名白帝城とも称され、現存する最古の天守閣が残っている。犬山城は、木曽川を背にした尾張北部の要害の地にあり、幾多の攻防戦を繰り返すなかで、当時の諸をとどめないが、二重目の板に至る20金町の土居をわずか一日で築いたといわれている。また、ここは三ツ山古墳群の跡地でもある。

41 羽黒城址（はくろじょうあと） HIMITSU 70069041*30

●住所：犬山市大字羽黒字城屋敷

鎌倉幕府を開いた源頼朝の近臣、梶原平三景時の孫景綱が築いたとされる。景綱から17代目の豊義は、織田信長に仕えたが、「本能寺の変」で信長に殉じた。小牧長久手合戦の際、羽柴秀吉は羽黒城を砦に改修させ、配下の森長可・城尾吉晴・山内一豊等が布陣した。

42 八幡林古戦場・野呂塚（はちまんばやしこせんじょう・のろづか） HIMITSU 70039384*58

●住所：犬山市大字羽黒字前川原23

天正12年（1584）3月17日に八幡林で起こった戦いは、続いて起こる小牧長久手合戦の前哨戦といってよい戦いであった。羽柴秀吉方の武将森長可の家来、野呂助を左衛門と嫡子の助三郎がここで討死。この親子の戦いぶりが語り継がれ、記念碑「野呂塚」が建てられた。

43 青塚砦跡（あおづかとりであと） HIMITSU 4861715*53

●住所：犬山市青塚22-3（青塚古墳史跡公園）

小牧長久手合戦の際、羽柴秀吉方の森長可が于人の軍兵を置くために構えた館跡と伝えられている。鎌倉時代に中島氏が、室町時代に中島一族の居館と考えられ、発掘調査の結果、秀吉方にとって前線の砦であった。碑の地は花崗岩質で、算出される砂は名古屋城の石垣にも使用されている。

44 楽田城址（がくでんじょうあと） 4864882*48

●住所：犬山市字城山97（楽田小学校）

織田久長の築城と伝える。永禄の初め頃（1558頃）犬山城主織田信清に城を奪われるが、織田信長が信清を追放し臣下の坂井政尚が城を守った。その後、横川高盛が城主となった。しばらくして廃城となったが小牧長久手合戦の際には、羽柴秀吉がここに本陣を置いた。

小牧市

45 岩崎山砦跡（いわさきやまとりであと） HIMITSU 4832096*27

●住所：小牧市岩崎1337

小牧長久手合戦の際、織田信雄・徳川家康連合軍に対抗して、羽柴秀吉が築いた砦。稲葉一鉄父子ら4千人に守らせた。この砦から山小牧山の連合軍が一望出来、秀吉方にとって最前線の砦であった。碑の地は花崗岩質で、算出される砂は名古屋城の石垣にも使用されている。

46 久保山砦跡（くぼやまとりであと） HIMITSU 4833287*38

●住所：小牧市久保一色

小牧長久手合戦の際、久保山の西麓に設けられた砦。はじめは丹羽長秀が守備したが後に、羽柴秀吉自らが本陣の楽田城からここに移り全軍を指揮したと伝える。別名丸馬山と呼ばれている。現在の熊野神社社地一帯が砦跡と考えられる。

47 小松寺砦跡（こまつでらとりであと） HIMITSU 4804842*55

●住所：小牧市小松寺1121（小松寺地内）

小牧長久手合戦の際、羽柴秀吉軍の砦として築かれた。守将は丹羽五郎左衛門長秀（長秀の子長重とする説もある）で約千人の兵で陣を敷いた。小松寺は、加藤光泰等の武将が守備したとされる。秀吉は岩崎山の南麓茶屋前より田中、二重堀の砦に至る20金町の土居をわずか一日で築いたといわれている。また、ここは三ツ山古墳群の跡地でもある。

48 田中砦跡（たなかとりであと） 4773570*18

●住所：小牧市東田中571（東田中三ツ山会館）

小牧長久手合戦の際、羽柴秀吉軍の砦として築かれた。堀秀政、蒲生氏郷、加藤光泰等の武将が守備したとされる。秀吉は岩崎山の南麓茶屋前より田中、二重堀の砦に至る20金町の土居をわずか一日で築いたといわれている。また、ここは三ツ山古墳群の跡地でもある。

49 二重堀砦跡（ふたえぼりとりであと） HIMITSU 4742809*04

●住所：小牧市大字二重堀545

小牧長久手合戦の際、秀吉軍が小牧山の徳川家康方に対して設けた砦で、秀吉軍の最前線として特に重視された。日根野弘就兄弟等一守らせたが、家康軍の攻撃により、多数の死傷者が出た。林地整理のため、当時の跡をとどめないが、二重堀の集落の北端あたりにあったとされる。

50 上末城跡（かみすえじょうあと） 4775351*57

●住所：小牧市上末405

文明年間（1469-1487）、尾張二の宮（大県神社）の祠官重松秀利の三男落合将監勝正の築城と伝える。勝正の子安親は織田氏に仕えたが、小牧長久手合戦の際、羽柴秀吉方の池田恒興らに与方した。池田軍敗退後、廃城となる。

51 小牧山城（小牧市歴史館） 4739658*17

●住所：小牧市小牧山1丁目1番地

永禄6年（1563）織田信長が、美濃攻略の拠点として築城し、永禄10年斎藤龍興の稲葉山城を攻め落とした後本城に移るまで在城、小牧長久手合戦の際、徳川家康が二ヶ月ほどこの本陣を構えた。指揮定めの小牧山公園は桜の名所として有名で、山頂に天守閣を模した小牧市歴史館がある。

52 蟹清水砦跡（かにしみずとりであと） 4710865*11

●住所：小牧市小牧4丁目

織田信長の家臣丹羽長秀の屋敷跡と伝える。小牧長久手合戦の際に、織田信雄・徳川家康連合軍がこの砦を修復し羽柴秀吉方の陣に対抗した。江戸時代には小牧陣屋の跡国が置かれ、その一角から清水が湧き出て、蟹の棲息が見られたため、蟹清水と呼ばれていた。

53 北外山砦跡（きたとやまとりであと） HIMITSU 4681713*33

●住所：小牧市北外山

小牧長久手合戦の際、徳川家康・織田信雄方により、北外山の古城を修復して造られた砦。蟹清水砦、平田津砦と共に小牧山南北方の砦として羽柴秀吉軍に対抗する重要な戦略拠点だった。現在は宅地化が進み、民有地に石碑が立つのみである。

54 宇田津砦跡（うだつとりであと） HIMITSU 4682808*82

●住所：小牧市東3-1（東海ゴム工業株式会社）

小牧長久手合戦の際、徳川家康・織田信雄方が築いた砦の一つ。羽柴秀吉方の一重砦敷の前に位置し、東隣の北外山砦と共に、東隣は北外山・宇田津両砦を結ぶ新道を敷設した。現在は、民有地内に「哥津の森」と呼ばれる小さな森があるのみである。

55 田楽砦跡（たらがとりであと） 4684710*38

●住所：春日井市田楽町1789

小牧長久手合戦の際に築かれた徳川家康・織田信雄方の砦。羽柴秀吉方の池田恒興の大軍に対抗し、「落ち延びた残党が田楽の伊多波八幡社に集結して いたもの。家康が自ら出向き、砦を造り守らせたのが始まりとされている。

56 陸田古城址（くがたこじょうあと） HIMITSU 4637742*71

●住所：稲沢市陸田北之内町

織田信雄の家臣・陸田市左衛門の居城と伝わり、築城年代は不明。市左衛門は この地の豪族。5代の直の代（1490）に「巴」と名乗り、織田信長の祖父の代に、近田市にある近田城を居城と した。周辺の字名には城下町をうかがわせる「丸の内」「西の口」「陣出」などが残っている。

57 下津城址（しもつじょうあと） 4609830*67

●住所：稲沢市下津片町

下津城は尾張の守護代織田敏広の居城。文正元年（1466）尾張守護の斯波氏内で起きた斯波義廉と義敏の相続争いの余波をうけて、下津城が襲われようとした時、織田敏広は防戦に努め、これを守り抜いたといわれる。

58 片原一色城址（かたはらいっしきじょうあと） 4570399*03

●住所：稲沢市片原一色町上方

橋本伊賀守の居城と伝わる。橋本氏は南北朝時代から8代、約180年間にわたり、この地に居城し、5代直政の時に「巴」と名乗り、織田信長の勢力の頃に（橋本一巴）で、浮野の合戦で勇名をはせた。片原一色城は天和元年（1615）一国一城令により取り壊された。

59 矢合城址（やわせじょうあと） 4543429*38

●住所：稲沢市矢合町字城跡2490（国分禅寺）

築城年代、築城者不詳。片原一色城主橋本道一の弟大膳が早尾東城から矢合城へ移り居城したとされる。城の東に城下町があり、「矢合の市」と称され、この地に鎮座する諸社の祭礼の日に加藤氏 の「出方」が織田信長の家臣として仕えたとされる。この井戸水は万病に効くという民間信仰が ある。

60 長束正家邸址（なつかまさいえていし） 4547442*54

●住所：稲沢市長束町沙弥

豊臣秀吉の五奉行の一人長束正家は、尾張国長束村の出身と伝わる（近江国説もあり）。正家は天正15年（1587）に国内検地を行い、尾張は1郡当たり15万石を与えた。関ヶ原の戦いでは西軍に属し石田三成らと共に徳川家康方と戦ったが池田輝政・長吉軍に包囲され、自刃した。

61 長光寺（ちょうこうじ） 4520543*62

●住所：稲沢市六角堂東町3丁目2-8

応保元年（1161）、平頼盛の創建と伝える。境内には、中国風の形式をもつ唐様の堂所建築で、重要文化財の地蔵堂（六角堂）が建立されている。織田信長が不 の湯に使ったとされる井戸があり、信長に仕えた僧学者武井夕庵が「馭松水（がしょうすい）」と命名した。

62 浅野長勝宅址（あさのながかつたくあと） 4520483*15

●住所：稲沢市六角堂東町4-1-4

広島藩の浅野氏の祖先である浅野長勝の屋敷跡と伝わる。長勝は織田家の弓奏 として仕えたが、義父おわが織田信長の家来だった木下藤吉郎に嫁ぎ、浅野氏は その縁で家臣となった。しばらくして廃城となったが小牧長久手合戦の際には、羽柴 秀吉がここに本陣を置いた。

63 溝口城址（みぞぐちじょうあと） 4482004*33

●住所：稲沢市西溝口北郷15（成願寺）

応永年間（1394-1428）に美濃国より移り住んだ溝口氏の築城と伝える。溝口秀勝、幼少より丹羽氏に仕え、のちに織田信長・豊臣秀吉に仕えた。関ヶ原の戦いでは秀吉の命により上杉景勝が会津に移封された際、初代越後新発田城主となった。

64 増田長盛邸址（ますだながもりていし） 4459600*34

●住所：稲沢市増田南町字屋敷（八幡社地内）

豊臣家五奉行の一人、増田長盛の屋敷跡。増田村で生まれた長盛は豊臣秀吉に仕え、大和国郡山20万石の城主となる。関ヶ原の戦いでは西軍に属し、大坂城 の留守役を務め、敗戦後捕虜送区、高野山へ追放された。大坂の陣の際、子盛次が大坂方にあったことにより、自刃させられた。

65 勝幡城跡（しょうばんじょうあと） 78119322*86

●住所：稲沢市平和町城之内53番2

永正年間（1504〜1520）、織田信定が築城、後継者の信秀が、一時期本拠とした。信秀の子、織田信長はこの城で誕生したともいわれている。信秀はこの城を 拠点として勢力を伸ばしていった。

津島市

66 浅野長政公生誕地碑（あさのながまさこうせいたんちひ） 4612048*88

●住所：北名古屋市北野天神35（雲松寺門前）

浅野長政は豊臣秀吉と相婿の関係にあり、豊臣政権の五奉行の筆頭であった。北野雲松寺門前の右手に建てられた「顕彰三位浅野長政公生誕地」の碑文には「天文年六丁未（1547）長政公当所安井氏二生マレ後浅野氏（浅野長勝）ノ養ナル」と記されている。

67 林通勝邸跡（はやしみちかつていあと） 4553372*60

●住所：北名古屋市沖村西ノ郷212

林通勝は、織田信秀や信長に仕えた武将。信長の筆頭家老であったが、信長の 勘信行を誅正して反旗を翻した。のち許され、長島の一向一揆鎮圧などに、滝川一 益、丹羽長秀らと共に多大な功績を挙げた。しかし、その武勇は認められず、信行謀 反の罪を問われ、信長によって追放された。

68 九之坪城址（くのつぼじょうあと） 4555157*73

●住所：北名古屋市九之坪町字西城屋敷70（北名古屋市高齢者活動センターふれあい の家）

織田信長の家臣であった梁田政綱の城。政綱は永禄3年（1560）桶狭間の戦いで、今川軍の行軍路周辺の情報収集を行い、信長より戦功第一と賞される。その後の桶狭 間勝家、木下藤吉郎らとともに各地に転戦し武功を残した。近くに梁田政綱による 盗賊と伝わる「十所社」が残る。

69 蜂須賀小六正勝公旧宅跡（はちすかころくまさかつこうきゅうたくあと） 4422078*14

●住所：海部郡美和町大字蜂須賀北本郷1289

蜂須賀正勝は字名を民とし、小六は幼名。現在の江南市に居を移し、川並衆を率いて織田信長や豪藤道三に仕える。木下藤吉郎の墓俣一夜城築城に前野長康 と共に副将として本陣を構えた。指揮定めの小牧山公園は桜の名所として知られ、 山頂に天守閣を模した小牧市歴史館がある。

70 蓮華寺（れんげじ） 4422262*20

●住所：海部郡美和町蜂須賀大寺1352

弘仁9年（818）、弘法大師が熱田神宮の神託により創建と伝わる。広大な境内には、この地方の豪族蜂須賀小六正勝の顕彰碑と蜂須賀城址の碑が立つ。美和町を代表する名刹であり、蜂須賀家の菩提寺で、県指定文化財を所有するほか、数棟国は県の史跡名勝に指定されている。

美和町

71 福島正則公生誕地碑（ふくしままさのりこうせいたんちひ） HIMITSU 4425474*77

●住所：海部郡美和町大字二ツ寺屋敷176

福島正則は、美和町二ツ寺で生まれる。母が豊臣秀吉の叔母だった縁から、幼少より秀吉に仕え、戦争時の活躍により、のち尾張清洲城主となり、秀吉没後は徳川家康に従い関ヶ原の合戦後安芸広島49万8千石の大封を得たが、加藤清正らの死去に対攻策に力を失った。

72 菊泉院（きくせいいん） HIMITSU 4425626*73

●住所：海部郡美和町大字二ツ寺字屋敷69

この寺は鎌倉期以前の平安弘数の寺院として創建された。文禄元年（1592）に一族寺明堂周見興和尚が開基し、清洲城主の福島正則が、豊臣秀吉の菩提寺として、母は利家の母の姉に当たるという。

73 清洲城（きよすじょう） 4461557*67

●住所：清須市朝日城屋敷1-1

応永12年（1405）に尾張守護斯波義重によって築城。その後、慶長15年（1610）に名古屋城築城にともなう「清洲城破」が行われ全て20年の歳月に亘って尾張国の府城であった。桶狭間の戦いに勝利した信長が天下統一の第一歩を踏み出した城である。

74 小田井城跡（おだいじょうあと） HIMITSU 4435334*41

●住所：清須市西区児玉町小田井2丁目（小田井城総公園）

文明13年（1481）尾張守護代であった織田敏定によって清洲城の支城として築 かれ、敏定の孫、小田井の城主、織田常寛が死の際に、「清洲城は、織田家の安全城 として使われたが、末裔の津田忠原の時、羽柴秀吉によって廃城となったといわ れる。

75 雲居寺（うんごじ） 78057342*37

●住所：津島市北町32

服部小平太の菩提寺。小平太は織田信長に仕え、永禄3年（1560）の桶狭間の戦 いにおいて今川義元二番槍をつけ討ち取ったとされる。本堂内の宮の後は空襲 焼失したが、各地を転戦し、その戦功により、天正19年（1591）には伊勢松坂3万5千石を与えられた。

76 成信坊（じょうしんぼう） 78057099*85

●住所：津島市本町1-41

津島市内有数の浄土真宗の大寺で、織田信長と戦った長島一向一揆の指導の 中心的存在であり、のち秀吉に仕えた高橋右近の菩提寺。「津島明治」の称号を 授けられた。参道に石灯が数かれており、毎年「ひきの日」と呼ばれる。

77 清正公社（せいしょうこうしゃ） 78057061*08

●住所：津島市上河原町

加藤清正は豊臣秀吉に仕えた武将。朝鮮出兵の際、清正は、秀吉から肥後 国を与えられた。関ヶ原の戦いでは徳川家康方に味方し、加藤清正の遺骨は、 清正公社は清正を祭神とし、幼少の時、泥棒遊治をした故事に由来する鬼 祭が伝わっている。

78 津島神社（つしまじんじゃ） 78056017*34

●住所：津島市神明町1番地

全国に数多くの末社をもつ津島神社の総本社で、祭神は建速須佐之男命。信長・秀吉からの特別の神社保護を受け、「西の八坂神社、東の八坂神社」と並び称さ れた。桃山式の楼門は豊臣秀吉の寄進。

79 宇治城跡（うじじょうあと） 4361049*84

●住所：津島市宇治町茶ノ屋79（福祐寺）

明応・文亀の頃（1500年前後）に築かれた国盗り物語の代表的な城。織田信 の家臣により、南の織田氏の城として、北の朝倉氏に対する防衛の拠点として 長島の家老となったという。長益が誓江城に移るまでの間、藤堂城となるに 海東郡支配の中心的な役割を果たした。

七宝町

80 前田利家妻松生誕地（まえだとしいえつままつせいたんち） 4366478*75

●住所：海部郡七宝町大字沖ノ島字北屋敷46

前田利家の正室芳春院まつは、尾張国海東郡沖ノ島（七宝町）で誕生。永禄元年（1558）前田利家と結婚した。沖ノ島は前田家の本拠尾張荘域（名古屋市中川区）に近い。まつの父は織田信長の家臣篠塚主基（異説あり）で、母は利家の母の姉に当たるという。

81 萱津古戦場跡（かやつこせんじょうあと） 4370655*22

●住所：稲沢市西溝口北郷15（成願寺）

清洲の織田信友と熱古野の織田信長の戦い跡。天文20年（1551）織田信長の父、織田信秀が没すると、翌年、清洲織田家の坂井大膳、河尻与一らが松葉城・深田城の両城を占拠した。この戦いで信長が出陣し勝利した。

甚目寺町

82 早尾東城跡（はやおひがしじょうあと） 78084475*28

●住所：愛西市早尾町村北115（常徳寺）

津島の豪族大橋源三右衛門の居城と伝わる。大永4年（1524）勝幡城主織田信定（信長の祖父）に攻められ、城を明け渡して和睦した。本能寺の変の後は、清洲城主織田信雄の家臣横木大膳が城主となるが、大膳が矢合城へ移り廃城となった。

**83 古木江城跡